令和7年度
留学生が学び・住み・就職して良しの熊本県版・国際化推進事業

「受入れ態勢整備」業務
【成果物】

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会≫が実施した令和7年度「専修学校の国際化推進事業」の成果をとりまとめたものです。

令和8年3月2日

一般社団法人熊本県専修学校各種学校連合会

■件　名
R7年度国際化推進事業【受入れ態勢整備】業務

■目的
・熊本県内の留学生受入れを検討する専修学校の経営者や担当者を対象に、留学生受入れ促進に向けた意見懇談会を開催し、受入現場や、留学生市場への理解を深める。

・県内専修学校での留学生受入れに関する現状・意識調査を実施し、現状だけでなく課題・改善点等の実態把握を経年的に行う。

・県内専修学校の留学生受入れ校、受入れ課程の拡大を目指して、留学生に選ばれ、学び、住み、働く熊本をになるためのプランを策定。

■納品物件及び数量：

①専修学校向け「新規留学生・受入促進の懇談会」開催
2回開催（2025年6月25日／2026年1月21日）

②専修学校状況アンケート調査
回答数：39校。内、留学生を受入中の学校が9校。

③「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認と更新
令和6年度に策定したプランの進捗・更新を、自治体、団体へのヒアリングを通して確認。

①専修学校向け「新規留学生・受入促進の懇談会」開催

【第1回新規留学生・受入促進の懇談会　議事録】

日時：2025年6月25日14:00～15:30
場所：KKRホテル熊本
参加者：(委員)

熊本県専修学校各種学校連合会　会長	木庭 順子氏
熊専各副会長、九州技術教育専門学校　校長	赤山 聖子氏(オンライン)
熊専各副会長、九州中央リハビリテーション学院　専務理事	志垣 伸太郎氏
専修学校熊本YMCA学院　留学生担当	宮崎 正弘氏
専修学校熊本YMCA学院　留学生担当	吉田 万貴氏
専修学校熊本壺溪塾　水前寺校副校長	竹島 加奈子氏

(参加者)

熊本工業専門学校　校長	西島 真一氏
ヒロ・デザイン専門学校　副校長	本田 茂貴氏
熊本駅前看護リハビリテーション学院	川上 勝美氏

【内容】
(熊専各会長　木庭氏より挨拶)
(事業計画について)
・井手より資料に沿って説明
■志垣氏：モンゴルでの留学フェアについて
・9月６，７日に現地の日本語学校(FUJI EDUCENTER)が主催する日本留学フェアに参加予定。主に日本語学校が参加している。
・訪問日程は9/5～9で検討中

■吉田氏：台湾での留学フェア、台湾人留学生向け短期プログラムについて
留学フェア
・10～12月で現地開催を検討中。
・YMCAのブランチ(台北、台中)を借りて実施予定。
短期プログラム
・11月～1月での実施を検討。
・留学フェアにて短期プログラムの案内を行い、参加を促すことも可能。
・阿蘇のキャンプ場を拠点に日本語学習、文化体験、観光等の行程の中で熊本の専門学校の見学や説明を検討。
・期間は1、２週間～1か月程度を想定。
・プログラムの中身は、阿蘇のキャンプ場が研修もできる場になっているため、紹介を希望されている学校が体験型授業のようなものや、バスで市内に出向いて学校を見学できれば、肌で体感することができると考えている。

（今年度の各業務への参画希望状況について）
・鋤崎氏より資料に沿って説明

（外国人留学生受入れについて～専門課程の事例～）
・志垣氏より説明
■留学生受入れに関する教職員の声
・留学生受入れ準備、学習・生活支援、それぞれで対応すべきことや課題がある。受け入れ準備では、日本語教員の確保、ビザ申請、アルバイト先・住居の確保。学習・生活支援では、日本語能力の向上、銀行開設の同行、在留カードの更新等対応は多い。

【第1回新規留学生・受入促進の懇談会　議事録】

■国際介護学科の特徴
・N2レベルに満たない学生が1年間通うコース。コース修了後は専門課程で2年間学ぶ。
・留学生の日本後能力は国家試験の合格率に比例するため、この学科を開設。N2があれば合格率7割、N1は8割以上となっている。
・全国での国家試験の留学生の合格率は3割程度、日本人は9割。九州リハでは留学生の合格率は7割程度。

■西島氏：熊本工業専門学校の場合
・国家試験の受験について、2級整備士は日本人8割、留学生は3割程度の合格率。
・資格がなくても就職はできるが、就職後できる仕事が限られるため在学中の取得を推奨している。
・留学生はカタカナと漢字が難しいよう。日常で使っているカタカナ英語を日本語に直すことが難しい。
・日本語学校での学習で学生の3割がN3取得している。
・留学生担当の教職員の生活支援の負担が多い。母国語が話せるがために負担が増える。

■吉田氏：YMCA学院の場合
・キリスト教を主としているので、お祈りの際にイスラム教学生は部屋の外に出ている。お祈りの部屋の確保等、気を回すことが多い。
・専門課程では、留学生が少なく7名。ネパール4名、中国2名、フランス1名。卒業時にN2が多かったが、徐々にレベルが下がっている。
・就職に関しては各自が就職先を見つけてくることが多い。県外への就職が多い。
・授業では日本語の学習はないので、自力で学習するように声掛けが必要。
・就職時は技人国のビザ

■井手：イデアITカレッジ阿蘇の場合
・日本人の学生と留学生は同じ環境で学習しているが週1回日本語学習を行っている(日本人はその間、英語学習)。
・留学生の国籍は分散をされている。日本語学校で日本語学習をされているので、スタッフも日本語で対応している。
・日本語の授業を翻訳し英語で学習している学生も中にはいる。
・日本語学校からの入学者が7割。現地国から直接受入れは今年度では6割程度。
・留学生の方が、日本人より就職が決まるスピードが早い。就職意欲の高さを感じる。
・IT企業は日本語能力よりプログラミング技術を求められるので、留学生との親和性が高いが、N3レベルだと就職に苦戦している面もある。
・日本語能力を仕上げるために1年間日本語を学び計3年間のコースを新設予定。
・未受入れ校は、まずは少人数での受入れを検討してほしい。

【第1回新規留学生・受入促進の懇談会　議事録】

（意見懇談会）
■木庭氏
・受け入れる側のスタッフに留学生受入れ経験がある方がいたほうが良いのか。
　―志垣氏：実体験としては少人数での受入れであれば必要ないと思う。
　－井手：週1回の日本語授業なので常駐のスタッフはいない。
　―西島氏：専門課程であれば必要ないと思う。方言での会話も成り立っている。日本語学校での職員は母国語対応スタッフを配置しサポートしている。

■本田氏
・具体的な留学生受入の話はないが関心はある。外国人は洋裁分野での就職が多いので留学してまで服飾分野で就職をする人は少ない。
■川上氏
・国家試験の合格率の面で留学生の受入が不安
・志垣氏に質問：理学療法、看護の分野で留学生を受け入れる意向はあるのか。
　－志垣氏：高い日本語能力が必要で、日本人でも試験に落ちることもあるため予定していない。

■竹島氏
・「詳しく話を聞きたい」と調査で回答した学校への説明のスケジュールを教えてほしい。
―志垣氏：デジタルパンフはDMCに委託。フォーマットを作成後、文章と写真をはめ込むイメージで話を進めている。
―井手：留学フェアでは専門学校の紹介のみになってしまうので、日本語科を持っている学校の参画が必要。
―吉田氏：モンゴルの受入れについて、YMCAにモンゴルから問い合わせが来ている。
―西島氏：教育現場でモンゴル人の受け入れ態勢がないこともあり受入は難しい。
―井手：日本語学校での枠を開けていただけるか等検討いただきたい。
詳しい話が聞きたい学校には、留学フェアの詳細が決まり次第案内を送付

【第2回新規留学生・受入促進の懇談会　議事録】

日時：2026年1月21日14:00～15:00
場所： KKRホテル　ニコル
参加者：(委員)

熊本県専修学校各種学校連合会　会長	木庭 順子氏
熊専各副会長、九州技術教育専門学校　校長	赤山 聖子氏
熊専各副会長、九州中央リハビリテーション学院　専務理事	志垣 伸太郎氏
(会員校)	
九州工科自動車専門学校　校長	中広 義隆氏
熊本工業専門学校　校長	西島 真一氏
専修学校熊本YMCA学院	宮﨑 正弘氏
専修学校熊本壺溪塾　教務	林 千紗子氏
ヒロデザイン専門学校	福本 哲也氏
熊本歯科技術専門学校　理事長	中島 英男氏
熊本県専修学校各種学校連合会 監事	岡 成也氏
熊本県専修学校各種学校連合会 監事	川上清司氏
(事務局)	
熊本県専修学校各種学校連合会　事務局	鋤崎 麻理
イデアパートナーズ株式会社	井手 修身
イデアパートナーズ株式会社	田村 菜実

【内容】
(熊専各会長　木庭氏より挨拶)

(本事業の活動報告)
井手より資料①～⑥に沿って説明
各国訪問について木庭会長から説明
■木庭氏：モンゴルでは、初回訪問時も親日の雰囲気があった。今年度の留学フェアでは、将来の目的をしっかりと持っている若者がいる印象を受けた。熊本での受け入れ先があるかどうかにかかっていると感じた。
台湾については、2月4日～7日で台湾人向け短期プログラムを実施予定。台湾の高校に直接周知に足を運び、高校生14名、先生2名の計16名が参加予定となっている。

■志垣氏：情報発信のついては、デジタルパンフとHPを作成している。今後も内容の充実を計画している。資料④がイメージ。
現地での情報発信について、モンゴルではFUJI EDU Mongoliaさんに熊本留学の窓口となっていただけるよう連携している。

■赤山氏：本校では次年度1名の留学生受入れを予定している。受入の中でノウハウを蓄積していきたい。

【第2回新規留学生・受入促進の懇談会　議事録】

（意見懇談）
■中広氏：
・パンフレットのるびをひらがなに直した方が留学生には易しい。
・地元の日本語学校、日本語科がある学校と提携することが効果的だと考える。

■宮﨑：
・セミナーで現地国でのキャリア教育があるときいた。日本語科から進学する際に何を勉強したいか仕事にしたいかが明確でない留学生が多い。ターゲットの3か国は優秀だと思うので、優秀な人材を受入れることがいいのか、分母が多くキャリア教育が追い付いていない国の方をどのように活用するのか。
・学費、住居費の支援があれば効果的だと思う。
→井手：ターゲット国について追加希望があれば、反映できるかもしれない。

■中広氏：ネパールはまだ日本留学希望の学生が多い。ミャンマーは優秀な方が多く真剣な方も多い。モンゴル台湾に関しては、今後の営業は考えていない。

（閉会）
■木庭氏：台湾では国際化に注力されており、日本(熊本)へのニーズも感じた。日本は芸術系の進学希望者が多い。今後もこのような会に参加いただき、様々なご意見をいただけると嬉しい。

②専修学校状況アンケート調査

（１）県内の専修学校への留学生の最新の実態把握

熊本県内の実態の把握ができていない県内の専修学校40校への留学生の最新の実態把握のためのアンケート調査を実施した。また、令和7年現在留学生の受入を実施している専修学校9校に依頼し、現在在学中の留学生受入れの実態を把握した。

●専修学校の留学生受入れ実態調査　アンケート調査

熊本県内の実態の把握ができていない県内の専修学校39校への留学生の最新の実態把握のためのアンケート調査を実施した。

【調査期間】2025年7月1日～9月末日
【調査方法】調査用Excelファイルをメールにて各校へ送付

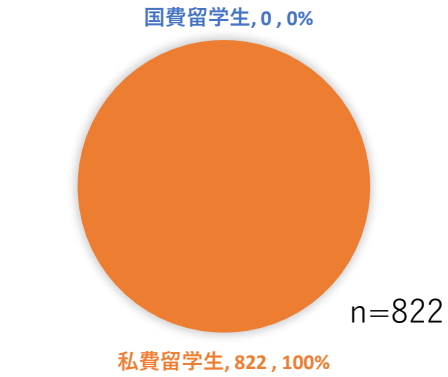
▷アンケート結果一覧

- **アンケート回答　39学校**
- **現在留学生受け入れ中の学校　9校**
- **令和7年度：留学生受け入れ数　822人（R6年度630人）**
- **令和7年度：ターゲット国留学生数　32人（R6年度9人）**
- **現在、受け入れている、今後も受け入れいていく　９校**
- **過去、受け入れていた、今後も受け入れていきたい　４校**
- **今後、新たに受け入れを検討している　６校**
- **関心はあるがよくわからない　９校**
- **今後、受け入れる予定はない　11校**

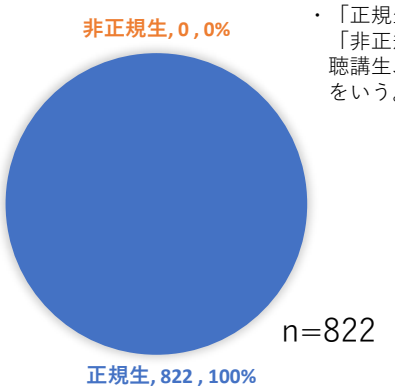
①専修学校の留学生受入れ実態調査　アンケート調査

■現在、受け入れている学校の留学生の状況　９校、822人

・学費について：国費、私費別

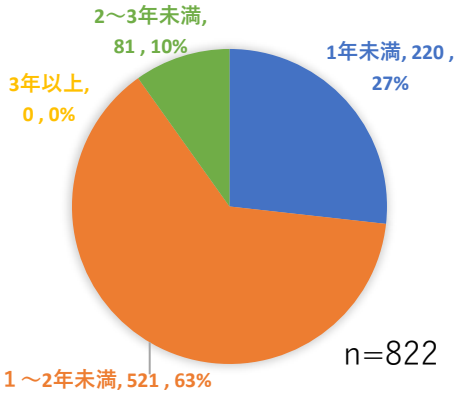


・正規生、非正規生別

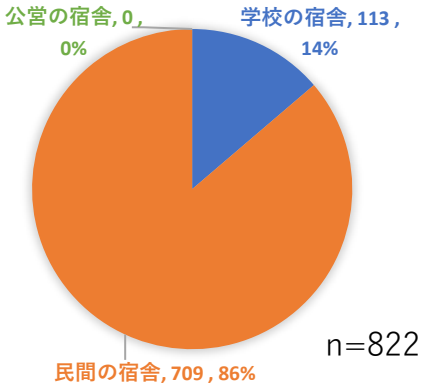


・「正規生」は本科生、「非正規生」は研究生、聴講生、科目等履修生等をいう。

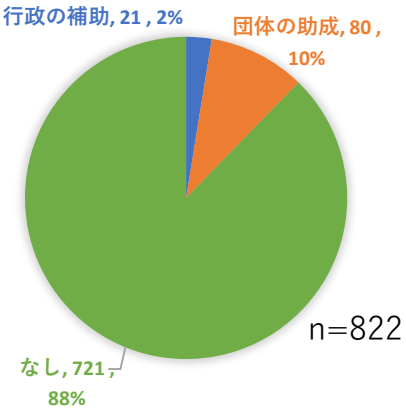
・修業年数別



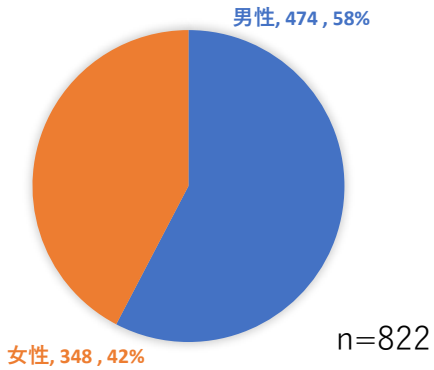
・住居：宿舎別



・家賃補助の有無



・性別

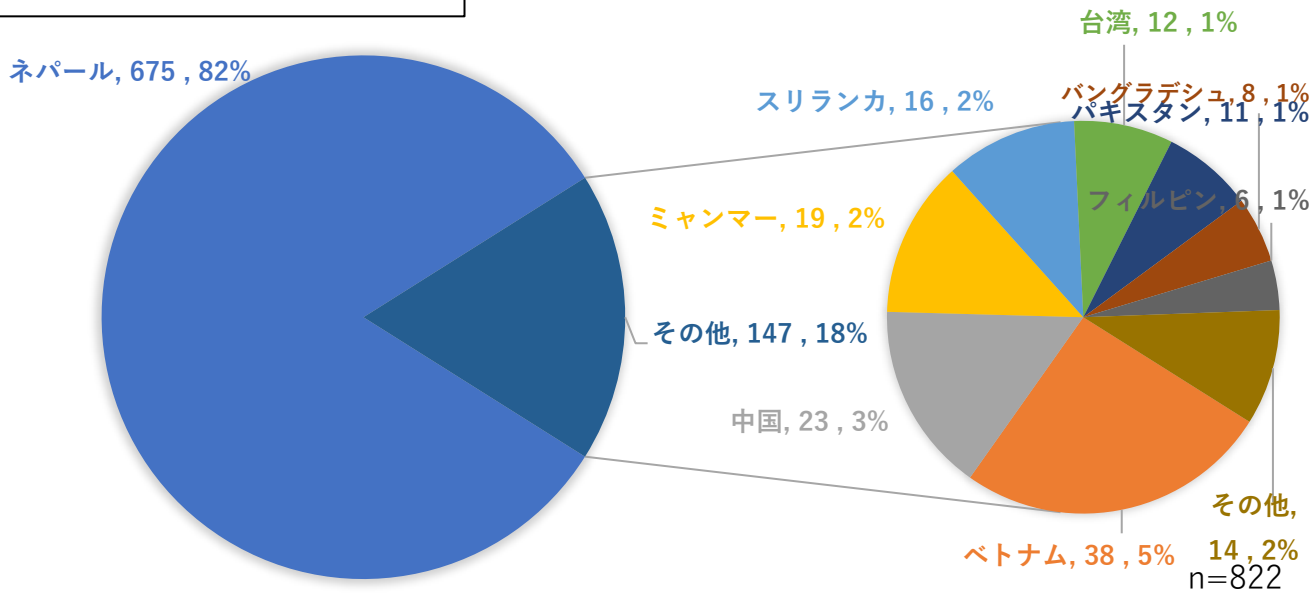


・留学生を受け入れいている９の専門学校の課程・学科の内訳をみると、23の学科の内、日本語科（1.5年、2年コース）が6あり、822人中、392人、40%の留学生が学んでいることが伺える。

①専修学校の留学生受入れ実態調査　アンケート調査

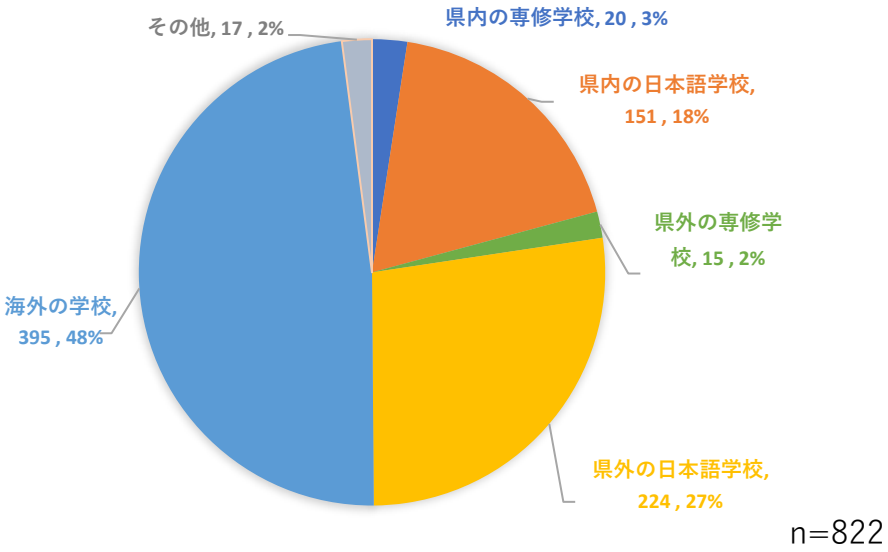
■現在、受け入れている学校の留学生の状況　　9校、822人

・出身地別



・ネパールが675人、82%と多い。次いで、ベトナム39人、中国23人、ミャンマー19人。
・台湾は、今年度12人、モンゴルは1人で、ターゲット国は32人である。

・学校へ入学前の直前の在籍機関

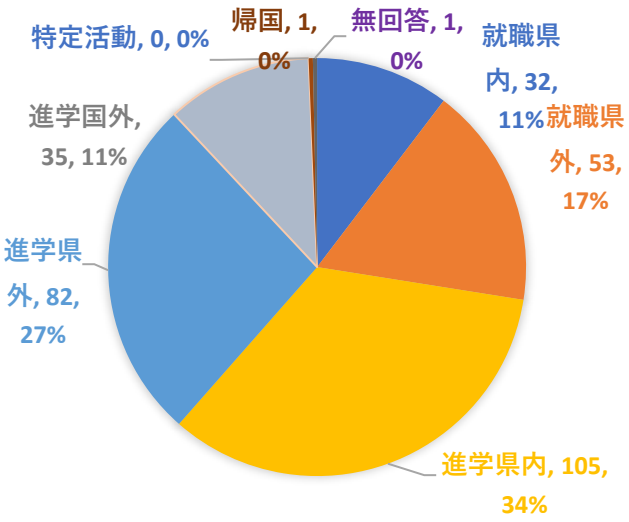


・海外の日本語機関から直接、専門学校の日本語科へ入学するケースが48%と多い。
県外の日本語学校、専修学校が29%にあり、県内からの進学は21%と少ない。

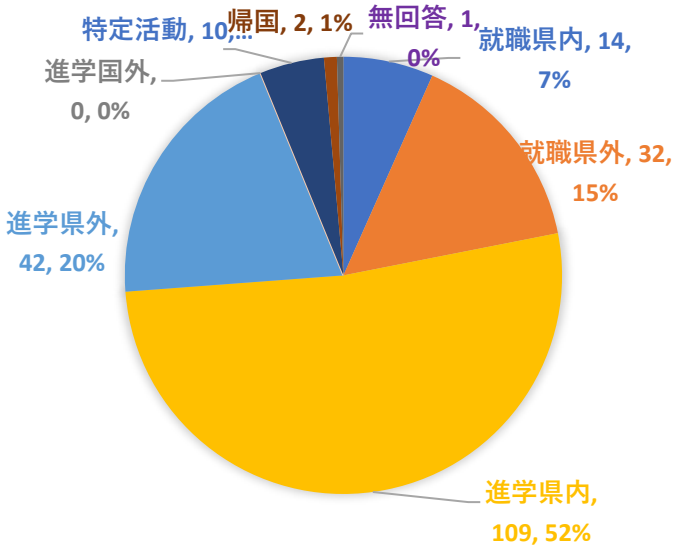
①専修学校の留学生受入れ実態調査　アンケート調査

■ R5年度、R6年度の卒業生

・R5年度卒業生の内訳　309人

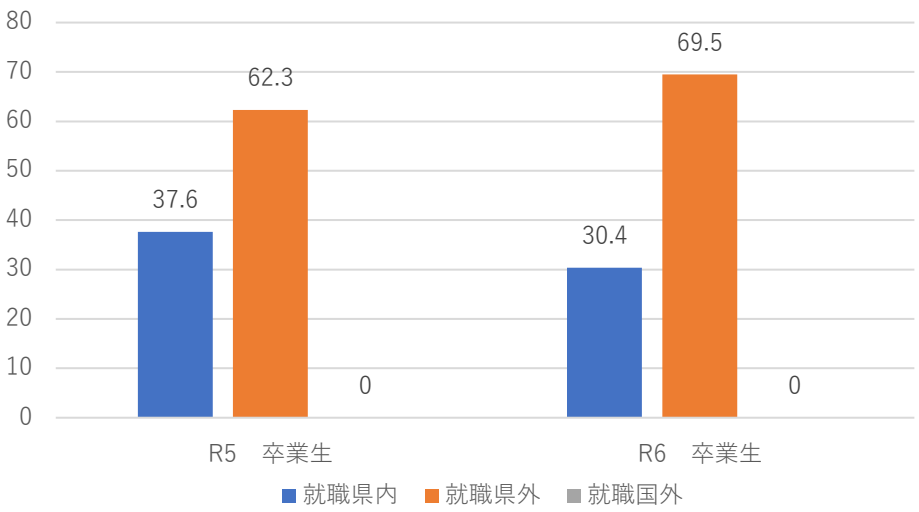


・R6年度卒業生の内訳　210人



・R5年度、R6年度の就職　県内・県外

※就職内訳		
	R5卒	R6卒
就職県内	32	14
就職県外	53	32
合計（人）	85	46

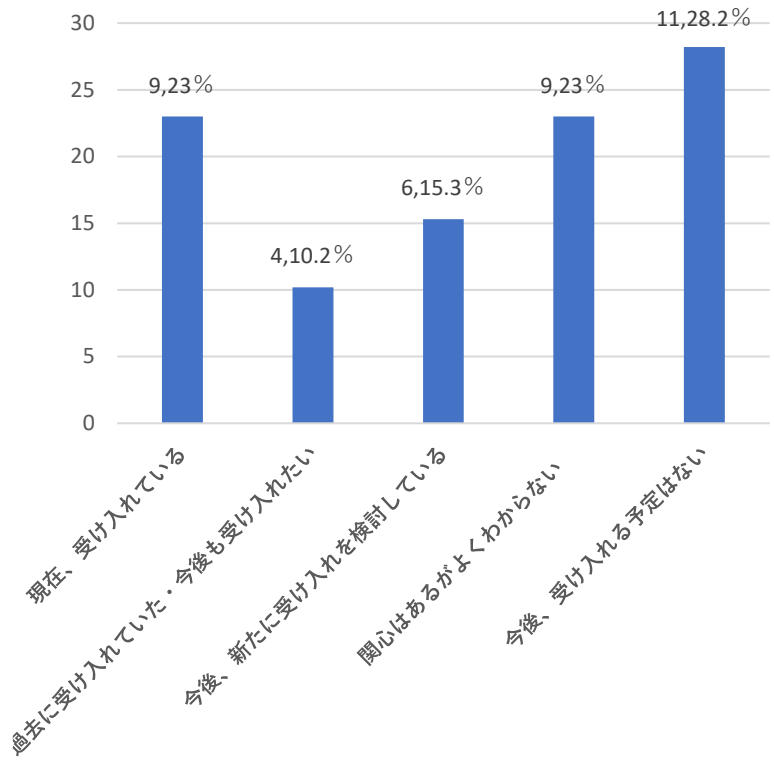


※卒業生の進路をみると、県内進学がR5年度34%、R6年度52%と多く、続いて県外進学R5年度27%、R6年度20%と多い。日本語課程からの進学が多いことが伺える。
※就職の内訳をみると、 県外がR5年度62%、R6年度70%と圧倒的に多く、県内就職は、R5年度38%、R6年度30% と低いのが現状である。
この調査結果から見えることは、国外の日本語機関から入ってきた留学生は、県内の専門学校で1～3年学んだ後に、県外の企業へ就職していく流れが多くみられることがわかる。

①専修学校の留学生受入れ実態調査　アンケート調査

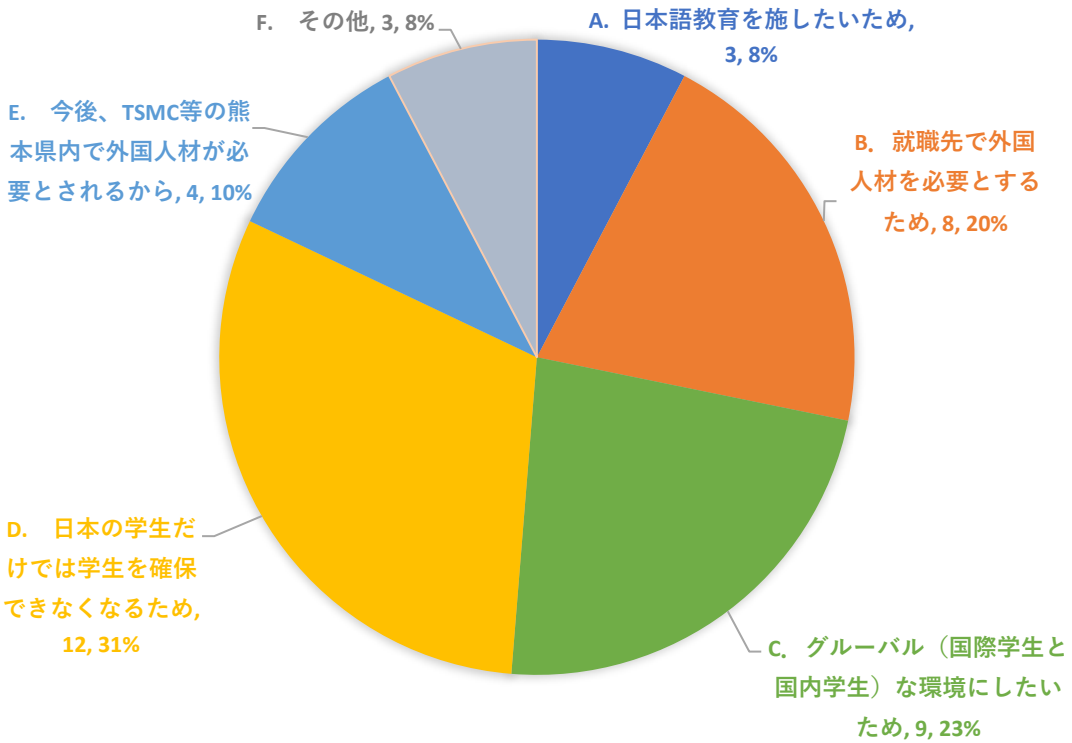
■専門学校の留学生受入れの意向について　　39校

■留学生受け入れの有無



・現在受け入れている学校は、9校23%、今後新たに受け入れたい6校を含めて、受入れを入れに前向きな学校は、19校になる。関心はあるがよくわからないが9校、受入れ予定がない学校が11校28.2%である。

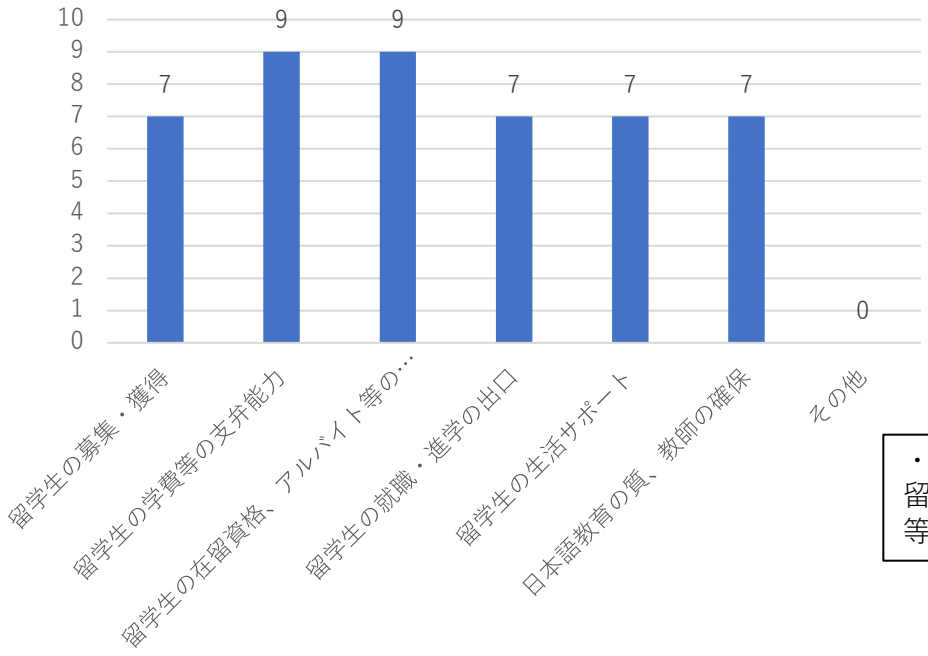
■ 留学生を受け入れている理由（複数回答）



①専修学校の留学生受入れ実態調査　　アンケート調査

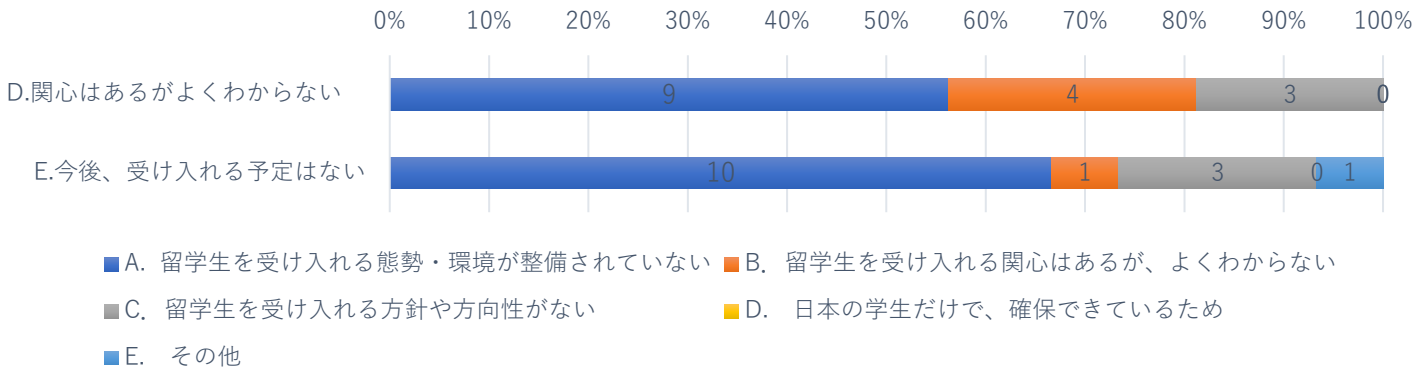
■留学生受け入れの問題点、課題（複数回答あり）

※「現在、受け入れている」と回答した学校、9校



・留学生の学費等の支弁能力、留学生の在留資格、アルバイト等の管理が9校と最も多い。

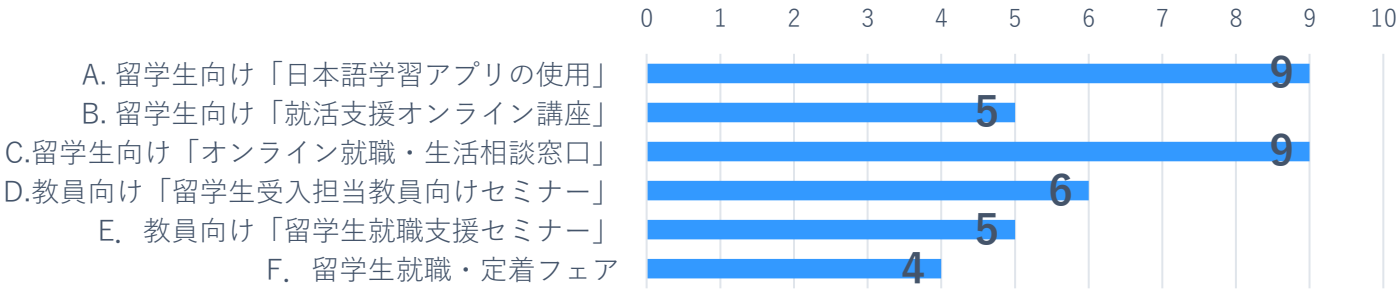
■受け入れる予定がない理由（複数回答あり）　n＝20

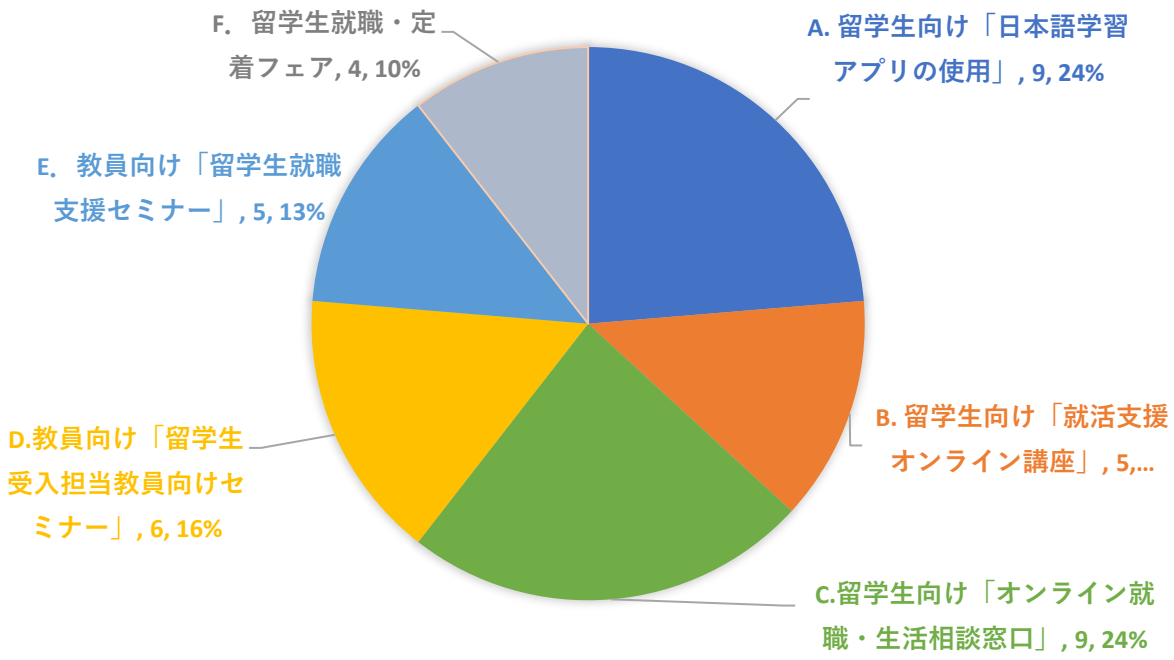


①専修学校の留学生受入れ実態調査　　アンケート調査

■サービス･セミナーへの参加意向（複数回答あり）　n＝13

※「現在、受け入れている」「過去に受け入れていた、今後も受け入れたい」と回答した学校、13校





①専修学校の留学生受入れ実態調査　　アンケート調査

■現在、留学生受け入れをしている専門学校の課程と学科　9校23学科

学校名	課程名	学科名	修業年数
九州工科自動車専門学校	工業専門課程	自動車整備科	2
	工業専門課程	国際自動車科	3
九州中央リハビリテーション学院	教育・社会福祉課程	介護福祉学科	2
	教育・社会福祉課程	国際介護学科	1
専門学校湖東カレッジ	工業専門課程	IT経済学科	2
	文化教養専門課程	日本語科	1.5/2.0
専門学校湖東カレッジ唐人町校	商業実務専門課程	国際ビジネス科	2
専修学校熊本YMCA学院	工業専門課程	建築科	2
	商業実務専門課程	医療秘書科	2
	商業実務専門課程	ホテル観光科	2
	文化教養専門課程	日本語科	1.5/2.0
九州測量専門学校	文化教養課程	日本語科	2
	文化教養課程	日本語科	1,5
イデアITカレッジ阿蘇	工業専門課程	ITｿﾘｭｰｼｮﾝ学科	2
	文化・教養専門課程	地域観光デザイン学科	2
熊本工業専門学校	工業専門課程	自動車整備工学科	2
	工業専門課程	半導体工学科	2
	工業専門課程	電気システム科	2
	工業専門課程	機械システム科	2
	文化教養専門課程	日本語学科	2
熊本外語専門学校	教養専門課程	英語科	2
	教養専門課程	国際科	2
	教養専門課程	日本語科	1.5/2.0

■「B.過去に受け入れていた・今後も受け入れたい」「C.今後、新たに受け入れを検討している」と回答した専門学校　10校

B	熊本デザイン専門学校	※未記入		
	熊本駅前看護リハビリテーション学院	医療専門課程	看護学科	3
	日本総合教育専門学校	教育・社会福祉専門課程	幼児教育学科	4
	熊本電子ビジネス専門学校	※未記入		
C	学校法人昭徳学園　九州動物学院	文化教養専門課程	動物看護学科	3
	学校法人梅野学園八代実業専門学校	未記入		
	学校法人赤山学園　九州技術教育専門学校 人吉校	工業専門課程	情報システム工学科	2
	学校法人赤山学園　九州技術教育専門学校 熊本校	工業専門課程	情報システム工学科	2
	専修学校　熊本壺溪塾	文化教養専門課程	情報キャリア科	2
	学校法人ロイヤル学園　熊本ベルェベル美容専門学校	衛生専門課程	美容科	2

③「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認と更新

【「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定の考え方と体系図】

■「留学生選ばれる熊本」になるための施策案

基本理念

【外国人留学生に選ばれる熊本】
学んで良し・住んで良し、就職して良しの多文化共生のまち・熊本

基本方針（案） ― **具体的な施策・事業（案）**

本プランは、【外国人留学生に選ばれる熊本】を実現していくために、令和6年度から令和9年度の4か年間で、熊本県専修学校各種学校連合会が本事業の中で主体的に取り組む事業に加えて、熊本県全体で熊本県、各専門学校、業界団体が取り組むもの、また連携しながら推進していく事業を俯瞰的に整理・記載したものである。

熊専各 専門学校 ～熊本県専修学校各種学校連合会、専門学校が主体的に行う事業で、R7年度に計画している事業を記載。

熊本県 ～熊本県のR7年度事業で、本事業に関係・連携する事業を記載。

K-KURASU ～KUMOMOTO　KURASUのR7年度事業で、本事業に関係・連携する事業を記載。

1．県内に留学したくなる受入れ促進を支援する取組み

- ❶-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」 熊専各
- ❶-2. 専修学校状況アンケート調査 熊専各
- ❶-3.「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認 熊専各
- ❶-4.留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討 熊専各
- ❶-5. 多言語パンフレット、動画制作 熊専各
- ❶-6. SNS等による情報発信・広告 熊専各
- ❶-7. ターゲット国での熊本留学フェア・説明会の開催 熊専各
- ❶-8. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置 熊専各
- ❶-9. ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携 熊専各
- ❶-10. 留学生誘致支援「（一社）大学コンソーシアム熊本」支援（企画課） 熊本県

【「外国人留学生に選ばれる熊本」プラン策定の考え方と体系図】

基本理念

【外国人留学生に選ばれる熊本】
学んで良し・住んで良し、就職して良しの多文化共生のまち・熊本

2. 県内で学びたくなる、住みたくなるを支援する取組み

- ❷-1. 台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施 熊専各
- ❷-2. 留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用） 熊専各
- ❷-3.(❶-4.と重複)留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討
- ❷-4. 熊本県外国人サポートセンター運営 熊本県
- ❷-5. くまもと多文化共創推進事業の実施 熊本県
- ❷-6. 外国人観光客の受入環境整備 熊本県
- ❷-7. 「熊本県24時間多言語コールセンター」活用の医療機関受診支援 熊本県
- ❷-8. 多文化交流の場、多文化共生の情報交換の場 K-KURASU

3. 県内で働きたくなる就職促進を支援する取組み

- ❸-1. 教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」 熊専各
- ❸-2. 企業・団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」 熊専各
- ❸-3. 企業向け「留学生・外国人受入れ促進セミナー」 熊専各
- ❸-4. 「留学生就職・定着フェア」「外国人材と企業のマッチングイベント」 熊専各
- ❸-5. 「くまもと方言マニュアル」の作成 熊本県
- ❸-6. 外国人材受入環境向上のための企業内研修教材の作成 熊本県
- ❸-7. 相談窓口「外国人材受入企業支援センター」設置 熊本県
- ❸-8. PR動画、パンフレットを用いた熊本で働く魅力の発信 熊本県
- ❸-9. 外国人材の住宅確保等に関する協定 熊本県
- ❸-10. 観光産業復興による雇用創出事業 熊本県
- ❸-11. 外国人材が活躍できる職場環境づくり 熊本県
- ❸-12. 技能実習生や外国人留学生等の日本語学習、資格取得等への支援
- ❸-13. 熊本で適切に働き、生活するための仕組み作り K-KURASU

（１）専修学校等で学びたくなる受入れ促進を加速する取組み

【受入れ態勢の整備】

❶-1. 専修学校向け「新規留学生・受入れ促進の懇談会」開催 熊専各 専門学校

・専修学校の留学生受入れ校、受入れ学科の拡大を目指す
・対象者：県内の留学生受入れを検討する専修学校の経営者・担当者
・回数：リアルとオンラインを併用して2回実施
・留学生受入れの課題解決の方策等を検討していく。

❶-2. 専修学校状況アンケート調査 熊専各 専門学校

・専修学校の在留学生、卒業生の状況アンケート調査
・県内の専門学校　：40件
・R6年度、7年度と同等にアンケート調査を行い、専修学校の受入れ実態を経年的に把握する。
・学校の方針：令和8年度の留学生の受け入れ希望数：令和8年度以降の留学生を受け入れていくにあたっての問題点、課題等

❶-3.「外国人留学生に選ばれる熊本」プランの進捗確認 熊専各

・R6年度に策定した【外国人留学生に選ばれる熊本】プランについて、熊本県、行政、専修学校、業界団体、民間団体がR7年度にどのように事業を推進しているかの進捗確認と共に、R8年度以降の施策案を更新していく。
・国際化事業実施委員会等で進捗の確認と関係団体へのヒアリング
・（一社）大学コンソーシアム熊本の留学生向けワンストップ相談窓口との連携もはかる。

❶-4. 留学生向け学費・住居費の一時金支援の設置の検討 熊専各

・留学生向け一時金支援等を設置して提供することを検討していく。
・独自の一時金支援の設置については、熊専各としては難しい。
　各専門学校や民間企業サービスでの対応を事例としてピックアップしていく。

（例）国の制度を活用して、外国人留学生奨学金等支給支援事業（高齢者支援課）にて、介護福祉士資格取得を目指す留学生のために、介護施設等が実施する奨学金の給付に要する経費を助成している。
（例）民間会社の家賃保証システムの活用
　　GTNのような民間企業のサービスを活用していく
（例）九州中央リハビリステーション
（例）イデアITカレッジ阿蘇

（１）専修学校等で学びたくなる受入れ促進を加速する取組み

【情報発信の強化】

❶-5. 多言語パンフレット、動画制作 熊専各 専門学校

・熊本県の専修学校を広く国内外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知し、各専修学校の外国人留学生誘致をサポートとするものとして、熊本県で学ぶ留学生が様々な支援サービスの情報を容易に入手できる多言語パンレット(デジタルパンフ)及びYouTube動画を製作する。
・WEB　サイト：TOPページ、数ページ、動画やパンフをアップしていく
・多言語パンレット(デジタル）：3か国対応、留学生を受け入れている、検討する専修学校及び熊本の生活環境情報、A4 カラー12P、A4　カラー４P（ダイジェスト）
・YouTube動画：3か国対応、留学生が熊本県で学び・住んで・就職することを訴求する動画を作成する。　3か国×4本（超短編）＝12本

❶-6. SNS等による情報発信・広告 熊専各 専門学校

・上記で作成した多言語パンレット(デジタル）、YouTube動画を3か国に在住する留学生に向けて効果的に、SNS等による情報発信・広告を行う。
・3か国の事情に対応したメディアミックスによる公告を行う。
・熊本留学フェアの開催も告知のコンテンツの１つとし、現地の日本語教育委機関と連携して情報発信を行っていく。
・熊本県内の3か国のコミュニティーを通しても情報発信を行っていく。
・（例）有料広告　3か国×SNSメディア ＝10本

【受入れ促進強化】

❶-7. ターゲット国での熊本留学フェアの開催 熊専各 専門学校

・熊本県の専修学校を広く国外に発信し、より多くの外国人留学生が熊本県を留学先として認知してもらうために、熊本県留学フェア・説明会を実施する。
・ミャンマー、モンゴル、台湾　各国1回ずつリアル開催（国によってはオンラインで数回）
・熊本県の専修学校、県内外の日本語学校　数校が学校説明会
・合わせて、熊本県の魅力を発信、個別の質疑応答、相談会
・オンライン併用で、熊本の専修学校と現地を繋ぎ、説明会等を開催
＊各国の状況に合わせて、単独開催、又は留学フェアへの出展やジャパンフェスティバルへの参画を行う。（国によってはオンラインで数回）
・開催時期：R7年7月～11月　各国1回ずつ開催





＊ターゲット国については、国内在住の留学生の受け入れも促進していく。具体的には、福岡都市圏で開催される会場での熊本県留学フェア・説明会も行い、参加者を増やしていく。
・対象学生の参加者数：３か国合計　40人

❶-8. ターゲット国内でのワンストップ情報センターの設置 熊専各 専門学校

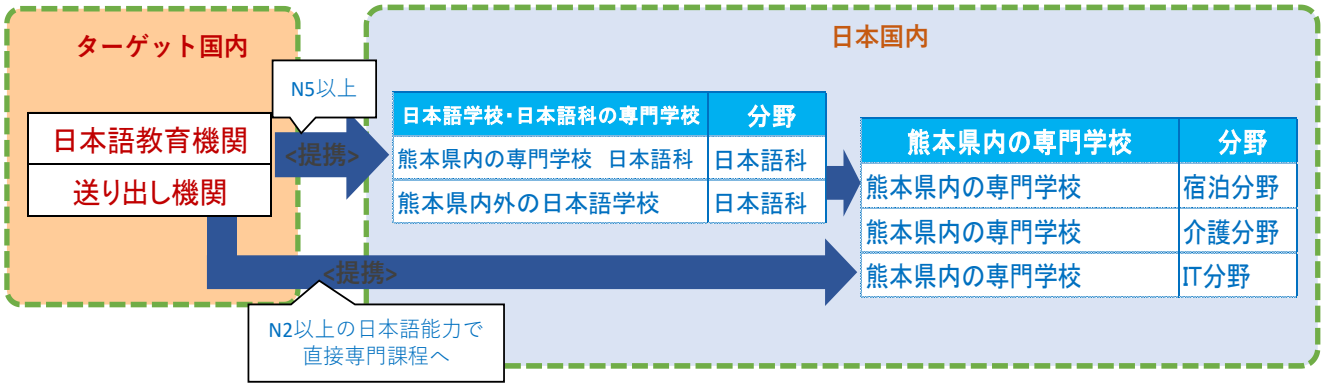
・熊本県における留学・就職情報、奨学金等の補助に関する情報に触れることができるワンストップ情報センターを設置する。単発の熊本県留学フェア・説明会の告知だけではなく、常時、熊本への留学の相談や就職等の相談の窓口と合わせて、情報発信の拠点としていく。併せて、熊本県との連携を図り、相談窓口を設け、留学から就職までの一貫したサポート体制を構築する。

（１）専修学校等で学びたくなる受入れ促進を加速する取組み

❶-9. ターゲット国の日本語教育機関及び国内日本語学校との提携 熊専各 各専門学校

・県内の専門学校の専門課程で、ターゲット国の留学生を受け入れる実績を作っていく。
・ミャンマー、モンゴル、台湾の日本語教育機関との提携・継続含む。
　３か国×5か所＝15件（提携・継続含む）
・県内外の日本語学校との提携を進めて、日本語学校＋専修学校の3.5年コース等を設けて、Ｒ７年度から３か国からの留学生の入学を行う。

（提携の取組み例）



❶-10. 留学生誘致支援「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」支援（企画課） 熊本県

・「一般社団法人大学コンソーシアム熊本」の留学生誘致に係る以下の取組みを支援。
（例）・留学生ワンストップ窓口の設置
　　・SNSを活用したネットワークの構築・交流促進 等

（１）専修学校等で学びたくなる受入れ促進を加速する取組み

■在学中〔教育指導〕〔在籍管理、生活支援サポート〕

❷-1. 台湾人留学生向け短期滞在受け入れモニター実施 熊専各 専門学校
・遊学(短期プログラム)プログラムの受入れをモニターとして実施する。
・内容：専門学校＋地域自然・文化体験、自治体連携プログラムを作成。
・実施機関：Ｒ7年度　・数日～２Wのプログラム
・参加者：５人　20代～40代。
・モニターとして、アンケート等をとり、本格プログラムに向けて検証する。

❷-2. 留学生向け日本語能力強化策（多言語学習アプリ運用） 熊専各 専門学校
・学習コンテンツの提供　日本語学習、日本の生活・就職マナー（全430 問）、
・日本語、ミャンマー語、モンゴル語、中国語（繁体）、英語、中国語（中文）、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語対応。前年度作成したアプリを利用する。
・アプリ利用：　Ｒ７年度200アカウント
・県内の専門学校の留学生に200アカウントを提供して、多言語学習アプリを導入して、利用してもらい、利用状況等を調査する。

❷-3.(❶-4.と重複)

❷-4. 熊本県外国人サポートセンター運営（熊本県国際協会） 熊本県
・熊本に住む外国人のみなさんが、安心して生活できるための相談窓口。
・外国人の方が安心して暮らせるよう、在住外国人や地域住民からの生活全般に係る相談に対応。 ＜ 22言語、平日9-17時 ＞

❷-5. くまもと多文化共創推進事業（国際課） 熊本県
・市町村の日本語教育担当者向けの「やさしい日本語講座」や研修を実施し、日本語教育の動向や地域日本語教育の必要性についての理解を促進するほか、県職員向けにも「やさしい本語講座」を実施する。

❷-6. 外国人観光客の受入環境整備（観光振興課） 熊本県
・観光公式サイト・ＳＮＳでの多言語での情報発信、観光パンフレット、観光案内標識の多言語化。
・外国人観光客と県内対象施設の円滑なコミュニケーションを支援する24時間多言語コールセンターの設置。

❷-7.「熊本県24時間多言語コールセンター」活用の医療機関受診支援（医療政策課） 熊本県
・外国人が医療機関を受診する際のコミュニケーションを電話通訳サービスにより支援する。
・なお、外国語対応医療機関等に係る情報提供は、厚生労働省の全国統一システム「医療情報ネット（ナビイ）」を活用。

❷-8. 多文化交流の場、多文化共生の情報交換の場 K-KURASU
・「つながる交流会」･･･2ヶ月に1回（不定期）で開催している外国人と熊本の日本人との食事会。この交流会は、災害発生時に外国人への支援を円滑に行うために、平時から顔の見える交流をし、それらつながっている外国人を通して、県内に在留する外国人への情報提供、支援をスムーズに行い、外国人が孤立しないようにすることを目的として開催している。

（１）専修学校等で学びたくなる受入れ促進を加速する取組み

■就職・定着支援

❸-1. 教職員向け「在留管理、就職支援セミナー」 熊専各 専門学校
・学生の募集、受入れ、学生管理、卒業後の進路（就職）に関し、要点を解説することを留学生管理の一助とする。留学生の就労範囲が拡大される中で、最新の動向を伝える。
・対象者：留学生を既に受入れている、今後検討している専修学校の教職員
・回数：リアルとオンラインを併用して１回実施

❸-2. 企業・民間団体向け「外国人就職に関する定期的情報提供」 熊専各
・行政、民間団体、業界団体、企業、専修学校の外国人材の雇用に関する情報の定期的発信（コンテンツは、各行政、民間団体、業界団体、専修学校のもの）を行い、行政、民間団体、業界団体、企業と専修学校のコミュニケーションを定期的に図っていく。
・ニュースレターの発行： メール便、年4回、セミナー、意識啓発等の案内

❸-3. 企業向け「留学生・外国人受入れ促進セミナー」 熊専各
・これから留学生を受け入れる企業向けに、留学生受け入れの際の注意事項や就労制度、出身国の文化・宗教に対する理解を深めるセミナーを実施する。
・留学生受入れ促進セミナー開催 年1回
・熊本県が主催する「外国人材受入れセミナー」との併用も検討する。

❸-4.「留学生就職・定着フェア」「外国人材と企業のマッチングイベント」開催 熊専各
・「留学生に選ばれる熊本」を目指して、就職・定着までを見据えた「留学生就職・定着フェア」を開催する。Kumamoto Kurasuが主催するイベントでの出展も検討する。
・「留学生就職・定着」ブース出展又は「マッチングイベント」の開催。

❸-5.「くまもと方言マニュアル」の作成（商工政策課） 熊本県
・外国人材の方言ストレスの解決の一助とするとともに、熊本への愛着を醸成するため、「くまもと方言マニュアル」を作成する。

❸-6. 外国人材受入環境向上のための企業内研修教材の作成（商工政策課） 熊本県
・外国人材受入事業者向けに、「やさしい日本語」をはじめとする知識・スキル等が習得できる研修教材を作成し、広く外国人材受入環境の向上を図る。

❸-7. 相談窓口「外国人材受入企業支援センター」設置（商工政策課） 熊本県
・外国人材の雇用に関する相談「熊本県外国人材受入企業支援センター」を開設する。

❸-8. PR動画、パンフレットを用いた熊本で働く魅力の発信（商工政策課） 熊本県
・送出国（ベトナム、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、カンボジア）向けに５か国語で熊本で働く魅力を発信する動画、パンフレットを用いたPRを実施する。

❸-9.外国人材の住宅確保等に関する協定（商工政策課） 熊本県
・外国人材の住宅問題をはじめとする事項について、株式会社レオパレス２１と相互に連携・協力することによって、外国人材の受入に係る取組の充実を図る。

❸-10. 熊本で適切に働き、生活するための仕組み作り K-KURASU
・県内の60近い企業・団体で構成するKumamoto Kurasuでは、「熊本宣言」を通じて、就業前に仕事内容・収入・生活など正確な情報を提供することで就業後のギャップ（こんなはずじゃなかった）を少なくする取り組みを遂行。また、シンポジウム、セミナーなどを通じて、県内関係者に外国人材の適切な受入への理解を促進している。